

「霞ヶ浦湖岸植物同好会」令和4年度後期活動報告

サクラタデ、サネカズラ、タンキリマメ(県Ⅱ)、オグルマなど湖岸を彩る群生が花や実を付けた。再生地でカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリの群生を確認した。ナガエツルノゲイトウ(特外)生育地拡大中。

月/日	ABEFGHIJKL 区 観察概況 (I B・II:絶滅危惧I B類・同II類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物)
R4 10/12	ヨシ・セイタカヨシ(県準)・オギの穂が出揃い、サクラタデなどのイヌタデ属植物とセイタカアワダチソウが満開。タコノアシ(国県準)やゴキツルが実を付けノイバラやシロタモの実が赤熟。再生地水際・消波堤植生にカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリを確認。特定外来アレチウリ着果、オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ生育地拡大。
11/9	ヨシやオギのふさふさした果穂が散布中でエノキの黄葉やヌルデ・ツタの紅葉、ノイバラなどの赤い実が目立つ。イヌタデ・サクラタデなどの花被の紅色が濃くなり、ヤナギタデ、サデクサ結実。再生地に出現したカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)とヌマガヤツリの果穂が茶褐色に熟す。キツタやカントウヨメナの花が満開でヒガンバナの葉が伸びていた。
12/14	ヤナギ類の落葉が進み葉枯れのヨシ、オギ、ヒメガマ、セイタカアワダチソウと緑葉のセイタカヨシ(県準)やセンニンソウ等、毛を付けた果実が散布中。ノイバラ・サネカズラ・マユミなどの赤い実や種子、スイカズラ・アオツツラフジの黒紫色の実を観察。除去区域外で生育地を拡大している特定外来生物ミズヒマワリやナガエツルノゲイトウを確認。
R5 1/13 (個人)	ヨシやオギなどの枯れ茎は散布済み、セイタカヨシ(県準)の葉はまだ緑色が残り林立していた。日だまりでホトケノザ、ノボロギク、オオイヌノフグリなどが開花していた。裂開した莢に黒い豆を付け高木に絡んでいるタンキリマメ(県Ⅱ)がまだ葉を付けていた。冠毛が開いたオグルマの頭花が見られた。水路でオオフサモ(特外)が横になっていた。
2/8	セイタカヨシ(県準)の葉は枯れ、ふわふわのカワヤナギやイヌコリヤナギの蕾が顔を出した。果序を付けたタコノアシ(国県準)、1本確認。オニグルミなど落葉樹の樹形や冬芽・葉痕を観察した。枯れ葉色の中で常緑樹が目立ち、法面ではウスジロアイノゲシなど越年草の葉や花が見られた。ナガエツルノゲイトウ(特外)は地下茎が生き残っていた。
3/8	カワヤナギ、イヌコリヤナギが開花しノウルシ(国県準)の芽が伸び出した。タネツケバナ、タガラシ、ヒメオドリコソウ、コハコベなどの越年草が多数花を付けていた。法面に群生するセイヨウアブラナが開花、アイノコセイヨウタンポポやハルジオンは地面近くで花を開いていた。川尻川沿でヤブツバキが多数花を付け、フラサバソウの花も見られた。



10月ナガエツルノゲイトウ(ヒユ科)
南米原産多年草、花序に長い柄がある。



11月カンエンガヤツリ(カヤツリグサ科)
攪乱依存植物、再生地の水際に出現。



12月スイカズラ(スイカズラ科)
蔓性常緑木本、冬葉は縁を裏に巻く。



1月タンキリマメ(マメ科)蔓性多年草
暖地性植物、果期が長く落葉も遅い。



2月イヌコリヤナギ(ヤナギ科)落葉低木
葉と同様、蕾も偽対生。



3月アイノコセイヨウタンポポ(キク科)
総苞外片がカントウタンポポとの中間形。

